

参考資料 4

令和3年度 第5回長野県環境審議会での委員からの意見等 ～第8期諏訪湖水質保全計画の策定について（諮問）～

委員の意見	事務局の発言
生態系に関する事項	
<p>(宮下委員)</p> <p>○第8期の計画策定は来年度改定される諏訪湖創生ビジョンとも密接に関係してくることもあり、生態系に関する検討が非常に気になっている。最近、漁業協同組合の方から漁獲量が激減しているとのことだが、水質に限らず、カワウ等の鳥類の被害等にも影響してくる。</p> <p>○シジミの養殖等の実験をしていただき、生態系についてはヒシ対策や浚渫対策などが非常に重要なポイントとなるが、所見はいかがか。</p>	<p>(仙波水大気環境課長)</p> <p>○生態系に関する調査研究は非常に重要だと思っている。諏訪湖の水質と生態系は切り離せない部分であり、ビジョンの検討、第8期の計画の両方で地域のご意見など幅広くお聞きしながら、策定を進めたい。また、令和6年に諏訪湖環境研究センター（仮称）の開設が予定されているが、こういった所でも生態系に関する調査研究に重点を置いて進めたいと考えている。</p>
<p>(梅崎会長)</p> <p>○漁獲量などの生態系の経時的なデータがあると良いが、水質基準以外にそういったデータはあるのか。</p> <p>○水質と生態系は複雑に関連している。同じ様なスケールで並べると、もう少し要因が分かるのではないかと思う。</p>	<p>(仙波水大気環境課長)</p> <p>○資料3-2では、諏訪湖漁協が市場で取り扱っている漁獲量や水産試験場諏訪支場で毎年度調査をしているヒシの繁茂についてグラフで示している。この他の生態系のデータも含めて分かりやすく示すことを検討する。</p>
<p>(打越委員)</p> <p>○底生生物とは具体的にどのようなものがイメージされているのか。</p>	<p>(仙波水大気環境課長)</p> <p>○シジミなどの貝類や魚類の中で底の方で生息しているものも含めて、諏訪湖の中で重要な生物を選定し、その生物がどれぐらい底層に依存しているかにより、底層溶存酸素量の基準を検討していく。泥の中に棲んでいるというだけではなく、底層を利用して生活している生物を含めた幅広い考えである。</p>

水質に関する事項	
<p>(今井委員)</p> <p>○諏訪湖と天竜川の水質の関係性については整理しているのか。天竜川への影響をどのように考えているか。</p>	<p>(仙波水大気環境課長)</p> <p>○諏訪湖は天竜川の源流という位置付けになる。天竜川は上流が一番水質の基準が緩く、下流へ向かうにしたがって基準が厳しく綺麗になっていくという特徴がある。今回、諏訪湖の流入河川から流出河川に至るまでシミュレーションなども実施する予定であり、汚濁負荷の収支の中で釜口水門からどの程度の負荷が出ていくか検討していく。</p>
<p>(打越委員)</p> <p>○資料3-4の琵琶湖と東京湾に関する底層溶存酸素量の類型指定について、琵琶湖は深さに比例したような図、東京湾は流入水や海からの流れの具合というのに関わってくるものが伺える。諏訪湖で底層溶存酸素量を考える際、水の深さや流入など、どのようなことを基準に類型を整理していこうと考えているのか。深さ以外も考慮して類型化していくということではいか。</p>	<p>(仙波水大気環境課長)</p> <p>○東京湾、琵琶湖の類型指定は、深さを基本に色分けされている。諏訪湖についても、深さで色分けしていくことを基本に考えているが、湖心に近いところのような自然現象としての貧酸素が起りやすい場所の指定をどうするかといったところも含めて、検討していきたいと考えている。また、諏訪湖の場合は季節変動が大きいので、これをどの様に表していくかも考える必要がある。</p>
その他の事項	
<p>(梅崎会長)</p> <p>○水質の改善・浄化や漁獲量の拡大のための具体的な施策は何か考えているのか。</p>	<p>(仙波水大気環境課長)</p> <p>○精度の高いシミュレーションモデルを構築し、施策を行うことでどの程度水質が浄化されるか出せるようになっている。流入河川の対策も含めて幅広く検討していきたい。特にヒシについては、最近高止まりともなっており、ヒシをどれぐらい刈り取るのが一番いいのかなど、生態系の面での検討もしたい。</p>
<p>(太田委員)</p> <p>○現在、水質的に水浴可能であるが泳がないという理由は何か。</p>	<p>(仙波水大気環境課長)</p> <p>○ヒシの繁茂や臭いなど水質以外の問題がある。また、砂浜のような入りやすい場所など、諏訪湖へのアプローチといった問題もあり、湖辺面の環境整備についても併せて検討が必要と考えている。</p>